

胴巻(上質なものを)をお願いしま
す。
母上様
十月十四日
祐康

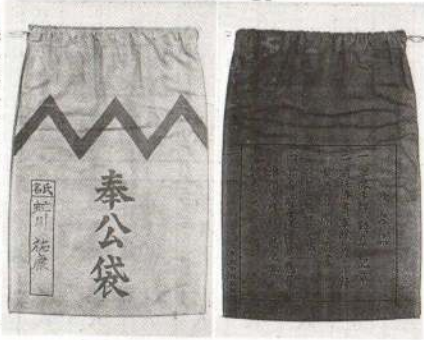
へその二

拝啓 時下春暖の候 ごぶさた
いたし、申しわけございません。
愚生事、数かざる作戦に参加
せしも、いまだすく元氣にて軍
務に服務しておりますので、な
とぞご安心ください。

運吉君、長一郎君の兩人も元氣
であります。今回はちよつとした
都合により庫之助君は六里半ぐら
い離れております。

母上様のお送り下さいました小
包はまだ受け取っておりませんが
近いうちに受け取れることができ
ると思っております。

母上様には数かざるお願いに
て申しわけございませんが、このご
ろ小遣い銭が少し不足いたしてお
ります。なにとぞいくらかお願い
いたします。日本の金は使用でき
ませんので、航空郵便にてお送り



奉公袋(兵士の必要なものを入
れる袋)



▲後列中央が祐康さん

下さい。
(中略)

でも、金を送ることについて、
家人に話してもだめだと言われ
らやめて下さい。だめだと言うの
を無理にとはいけませんから。家
人にかくして送ると言うようなこ
とは決していたさぬようにして
下さい。何事(祐康の事につき)
にも良く相談してやって下さい。
小包も送るにも良く話し合っ
て下さい。一家の和合が何より
も大切ですから。先日お送りいた
しました写真は一枚二十銭で買
求めたもので記念(在支那の)と
したいから粉失しないようアルバ
ムにはって下さい。

今後買い求め次第送るつもり
です。

カゼをひかないように注意して
身体を大事にして下さい。 敬具

母上様

祐康

※虹川祐康さんは、フィリピン、ル
ソン島で昭和二十年四月二十六日
戦死

「南中学区の太平洋戦争展」を 開いた生徒たちの感想文

「南中学区の太平洋戦争展」を
開いた生徒たち三人の感想文を紹
介します。

加賀谷 修

調査班だったのいろいろな体験
ができました。村をまわって、じい
さんやばあさんの話を聞いている
と、戦争の話なんかしたくない人や
じっくり教えてくれる人とかがい
ました。そのとき僕は、「戦争をやっ
ぱりいまでも憎んでいるんだなあ」
と思いました。手紙などを持って
いる人もいて、「約四十年間も大事
に持っているほど、死んだ人のこ
とを思っているんだなあ」と、泣
けてきました。最初は調査班だか
ら、ほかの班より楽し、面白い
と軽い気持ちでいたけれど、家々

佐藤 ルミ子

太平洋戦争についての資料や地
図などを書いてみると、「たくさん
の人が死んだんだなあ」とつくづ
く思いました。二十歳ぐらいの若
い人も死んでいたのが驚きました。
それに、食べ物もなくトカゲなど
も食べたと聞いてびっくりしまし
た。このようなむかしの時代と
比べて、今は幸せだなあと感じ
ました。南中学区だけでもこんな
に戦死した人がいるのですから、
全国には戦争により悲しんだ家族
がたくさんいたことでしょう。二
度と戦争はしたくないし、しては
いけないとつくづく思いました。

資料を書くとき、最後になって
くると急いで書いたため、字が汚
くなったのに、見に来てくれた
人たちは、私たちの展示会をほめ
てくれました。

長崎 純子

私は、テーマ館班で調べている

途中、残されたおばあさんなどが、目
をうるませて、触れられたいことを
教えてくれた姿などを思いだすと、や
っぱり戦争はおこしてはならないと思
いました。そして、まとめている時な
ども、遺族の悲しみが伝わってくるよ
うなりपोर्टで、戦争は体験していな
いけれど、戦争のこわさが何んとなく
わかるような気持ちでした。

平和を守る

佐藤 光晴

後輩が見た「南中学区の
太平洋戦争展」

戦争は殺し合い、傷つけ合い、全て
を破壊に導いてしまっています。人はだれ
も戦争の恐ろしさを知っています。太平
洋戦争は、日本にとって最悪の戦争で
した。戦争は未来永劫おこしてはなら
ないと思います。

昨年の学校祭で、先輩の三年生は戦
争をテーマにした展示を行いました。
このテーマ館では「南中学区の太平洋
戦争」というパンフレットを出しまし
たが、それには肉親を戦争で失った
悲しみと、苦勞、食べ物がないつも
空腹で雑草までも食べたことなど、
戦争のみじめさが書かれていました。
現代に生まれたことをしみじみあり
がたく思うと同時に、戦争は本当に恐
しいものだということが、体験談や
展示している戦争当時に使われた数々
のものを通してよくわかりました。
これからの世界は、科学や医学など
が限りなく発展することでしょう。し
かし、これらを核兵器などの戦争や、
人間の幸福を破壊することに利用させ
ないことが、二十一世紀を生きる僕た
ちの任務だと思います。

“安全を いつも心に ふむペダル”

— 歩道は歩行者が優先です。歩道が混雑しているときには自転車を降りて、押して歩きましょう。 —